

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300102		
法人名	社会福祉法人日岳会		
事業所名	グループホーム 野の花		
所在地	熊本県宇城市小川町南部田597		
自己評価作成日	令和2年 1月 24日	評価結果市町村報告日	令和2年 4月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの思いや、ものとのらえ方、考え方、性格をよく知り、その人の意思を尊重したケアを心掛けています。又、利用者様について知り得た情報をスタッフ全員で共有し利用者様が安心・安全に生活できるよう支援しています。ご家族とも密に連絡を取り合い生活の様子をお伝えしています。活動面では、系列事業所のイベントへの参加や季節ごとの地域の催し物見学、季節の行事などの外出活動の他、日常生活の中でリハビリ体操・生活リハビリ・制作・料理教室などに力をいれ楽しみある生活を送れるよう支援しています。利用者様にとって唯一の楽しみでもある食事は利用者様の好みや季節感を取り入れたメニューで栄養やバランスを考えながら心のこもった温かい食事の提供を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問時、リビングでゆったりと過ごす入居者の間には寄り添う職員の姿があり、入居者の声に耳を傾け会話をを楽しむ様子がうかがえました。入居者の様子も年々変わり、今では車椅子利用の入居者も増えたようですが、近くの関連事業所であるデイサービスへの訪問や地域行事への参加は継続されていました。職員手作りの食事は入居者だけでなく家族会を通じて家族へも好評で、季節感を感じることも出来る馴染みのある料理が提供されています。3食に加えおやつも手作りでもあるため、その日の体調や食欲等により個別に献立や食材を変える等臨機応変で、食べやすい物の提供がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の勉強会で理念を読みあげ理念に添ったケアができていくか再確認している。又、職員や訪問者の目の付く玄関とホールに掲示しています。	理念は訪問者にも絵に付く玄関・リビングにも掲示されており、運営推進会議等や通信にも記載して啓発を続けてきた。職員には毎月の職員会議開始時に理念を読み上げている。	理念の啓発・共有を継続して行ってきた様子がうかがえました。設立5年が過ぎたことを機会に、職員間で理念についての理解を深め、振り返る機会を持たれることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ利用者が参加できそうな行事があれば声をかけていただき利用者と一緒に参加しています。又、地域の総会などにも参加して交流を行っています。	管理者自らが地域の総会に参加したり、通信を地域の回覧板に配布したりと、開設以来の関係作りを続けている。隣接の法人デイサービスでの行事には合同で参加しており、地域からの来訪者とふれ合いの機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花通信を2ヶ月に1回作成し南部田地区の回覧板に入れてもらい、入居者にどのような支援をおこなっているか知ってもらうようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者に会議時、ホームの活動状況や入居者の活動状況などわかりやすいように写真を通して報告し意見やアドバイスを受けながらサービス向上に活かしています。	議題の中で入居者の毎日の生活風景を写真で紹介することで、日常の様子を知って頂いている。地域との関係も継続したものと、地域行事の情報収集や、事業所の体制や対応を積極的な開示を行っている。行政と地域を交えての意見交換をケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回は支所を訪れ連絡を取りながら協力関係を築いています。又、運営推進会議への参加があり定期的にホームを訪問され入居者の様子やホームの雰囲気を知ってもらい情報交換を行っています。	都度の町の担当者との報告・連絡等で関係を築いている。今年度より運営推進会議には市と包括支援センターとの一年交代で参加となったが、継続して事業所の様子を伝える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設にて全職員参加の勉強会がありテーマで年に1～2回取り組まれている。又、月に1回拘束廃止委員会を母体施設で行い身体拘束についての弊害を理解し職員一同、拘束のないケアに努めています。	法人全体で構成する「身体拘束廃止委員会」に担当職員が参加し、その後の職員会議で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマにした勉強会や、研修会に参加し職員一同、虐待をしないよう心掛けてケアをしています。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修や認知症実践者研修などで学んだ資料を皆で共有し勉強会を通して学ぶようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分説明した上で疑問や不明な点などないかその都度確認し、ちゃんと理解・納得ができるまで説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に生活状況や健康状態、利用者の考えなど説明し、ご家族の意見も聞きながらケアに反映させている。又、運営推進会議での家族代表との意見交換もあり意見や要望を運営に反映しています。	日頃の面会や遠方の家族へは電話での連絡と、家族の意見を聞く機会を普段から設けている。年1回の家族会では1年間の事業所の活動や姿勢を伝えている。入居者の身体状況の低下や看取りの対応等、質疑も活発に行われている。運営推進会議には家族代表が毎回参加している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回スタッフ会議・勉強会を行っており、職員の意見やアイデアを出し合い討議し反映させています。又、解決が難しい事に関しては法人で開催されるリーダー会議に持ちかけ検討しています。	毎月の会議だけでなく毎日の業務の中でも職員は管理者へ意見を伝える機会を持っている。事業所では業務に対する自己評価、法人からはストレッチェック等も行われている。管理者は月2回法人での会議等を利用し、職員状況等を代表者に伝える場もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心をもって働ける環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を見極め、その人に合った研修や資格所得を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の勉強会や研修などで交流の機会を設けています。又、意見交換や研修を通じて得た情報をサービスの質の向上に反映できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに馴染むまでは、接する機会多くもち、本人の気持ちや困りごとと不安感・要望などに耳を傾け、得た情報を職員一同で共有し、本人への対応を考え安心した暮らしが出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報や要望、困りごとを聞いて利用者への対応を考え実践し、それによって利用者がどのような状態になっているか常に報告しながらケアの方向性を家族と話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族としっかり話しどのような暮らしを求めているのかを見極め、その暮らしに近づけるにはまず何が必要なのか考え、実践に移す前に家族に意見を聞き対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者が出来る事、出来るような事を職員と一緒にすることで関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に必要時や、定期的に本人の状態を報告し来荘の依頼を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し物や、関連事業所に出向き以前の友人や知人に定期的に会うことができるよう支援しています。又、地区の夏祭りなどにも参加している。	地域からの来訪も多い法人のデイサービスには度々出向いており、利用者や来訪者とふれ合う機会も多い。地域の夏祭り等行事にも出来るだけ参加している。事業所にも地域の方の来訪も度々あっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や習慣を見極め、利用者同士のトラブルがおきかないよう注意しながら良い関わりができるよう努めています。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後本人に必要なと思われる支援について、ご家族に情報を与え相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話の出来る利用者に対してはソファや自室でつろいでおられる時に側に寄り添い本人の思いや希望を聞き介護計画につなげている。困難な場合はできるかぎり本人の思いに近づけるよう家族と相談しながら支援している。	日頃から職員は入居者の「話を聞く」ことを大切にされたケアを行っている。入居者がゆったり過ごす傍らには職員が寄り添う姿がある。活発な活動意欲は全体的に減ってきたが、過ごし方や食べたい物等、生活の中での思いはケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報をいただき把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に対しては日頃の表情や態度など観察して対応している。又、バイタルサインチェックを行い身体状況の把握に努めています。本人の持っている機能を活かし		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の話を聞きケアの方向性を見だし、医療面では担当医と看護師、生活面では介護スタッフの意見を聞きながら介護計画を作成しています。	入居者の思いは日頃の寄り添いから、家族の思いは面会等で確認している。職員の意見も参考に3ヶ月毎に見直しを行っている。介護計画の内容は毎月の職員会議で共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきなどは個別記録と連絡帳に記入し出勤時に目を通すようにしている。又、緊急性がある時にはその日に会議を開き話し合いを行っている。状況をみながら様子観察の時はスタッフ会議で話し合い介護計画を見直す。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連事業所からの情報なども参考にし取り組んでいます。		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて地域の役員から情報をいただき本人が暮らしを楽しむことが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に受診し状態報告を行い医師の指示に従い対応している。又、ご家族が本人を連れて受診される時は、日頃の状況を文書にし、医師に渡している。	入居前からのかかりつけ医の受診を継続して受けることができる。定期受診は職員の通院介助を行う。専門医受診は家族の協力もお願いしており、日頃の様子を伝えるため職員も同席したり、状況を文書にし医師に伝える等行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での気付きや情報は、どんな些細なことでも看護師に報告・相談し看護師が受診時に医師に報告し適切な看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、週に1～2回面会に行き看護師に状態を聞きながら今後の事についての相談やアドバイスを受けています。又、相談員にも今後についての相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎年、家族会議を行い、その時に重度化や終末期に向けた方針の説明を行っている。昨年4月に初めての看取りケア対象者があり、半年前から、食事が入らないことでの相談や今後の事についての家族の思いを聞き医師とも相談しながら看取りケアを行った。	入居者や家族の意向を第一としている。今回の看取りケアでは家族の心の支援も多きものであった様子が聞かれた。家族会の際には看取りに関する質疑もあり、現在の入居者からは看取りまでの希望も聞かれる。実際にその時を迎えた際には、家族・医療機関との話し合いを重ね看取りの支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルを作り定期的に確認・勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練・年に1回地震・風水害の訓練を行い隣接事業所の協力も得ている。又、法人全体で災害時の対応に関する研修を行っている。	事業所で「風水害・台風・地震等防災計画」を作成し、入居者全員参加のもと訓練を行っている。有事の際には非常ベルでは消防署に加え全ての関連事業所と全職員に連絡が届くようにしている。	

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心への配慮を心掛けて声掛けを行い、又、それぞれの状況において配慮した対応をするよう努めています。又、法人全体研修でも接遇の研修があり、職員一同学ぶ機会があります。	日頃のケアの場面それぞれの状況において配慮した言葉かけを行っている。入居者によっては同性介助を希望されることもあり、入浴日の調整等で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・生活リハビリ・外出・レクなど全てにおいて本人の意思を尊重しながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴など本人の意思を尊重しなるべく本人の希望に添い、本人のペースで過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを行い、一日を気持ち良く過ごせるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節感を取り入れたメニューで栄養面やバランスを考えながら食事を提供しています。時々利用者と一緒にホールでおやつを作り楽しみをもっていたり、食事の片付けも出来る方にはお願いをしています	職員手作りの食事を提供しており、朝食のパン提供等好みにも対応している。食事中は職員も同席し体調等の把握も出来ることから、その日の入居者の様子により個別に献立内容や食材を変えることもある。ホーム全体で楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みと栄養バランスを考えた食事をご本人の状態に合わせた食事形態で提供しています。又、食事が入らない時はラコールなどの高カロリー食品や果物などで補っています。水分は1日トータル1200CCを目標にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。自分で出来る方は自室でしていただくよう声掛けをしています。出来ない方は介助で行っています。うがいが出来ない方にはガーゼ等使い口腔内の清潔保持に努めています。又、口腔内のチェックも行っています		

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はなるべくトイレで気持ち良くを念頭におき訴え無い方に対しては排泄パターンを把握し、時間や水分量、気温など考慮し誘導を行っている。又、ソワソワ感や落ちつきがないなど、サインを見逃さないようにしています。	入居者それぞれの状況にもよるが、出来るだけトイレでの排泄を支援している。安易なオムツへの移行は行っていない。オムツの変更や対応等はスタッフ会議にて話し合い検討し共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と食物繊維を多く含む食材を使った食事を心掛けています。水分が入りにくい方には果物(ミカンやスイカ)やゼリーなどで補っていると共に排便コントロールも同時に行っています。又、食後はなるべくトイレに座るようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性スタッフに対しての拒否がある方には必ず女性スタッフで対応し、なるべく本人の希望に添って入浴を行っています。	週2回以上を基本とし、希望によりいつでも利用できる。希望があれば同性介助も対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望や状態に合わせて離床や臥床をしていただいています。又、昼寝が必要と思われる利用者には昼寝の時間を設けるが、無理強いは致しません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の現病に伴う内服薬の種類、副作用や注意する事など職員一同把握し服薬介助を行っています。又、それによっておこる小さな変化や、症状にも気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリや制作、学習活動など個々の性格や、持っている能力を活かしながら支援しています。又、月に1回の外出活動や季節ごとの行事への参加を促し気分転換を図っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個人の希望で自宅が見たい・髪を切りたいという希望がある方にはご家族の協力をお願いすることもあります。ドライブが好きな方に対しては、行きたい所を尋ね、実行しています。	入居者は車椅子の利用が多くなったものの、出来るだけ外出の機会を設けている。日常的には法人のデイサービスを訪ねたり、近隣の散歩、地域行事等。そのほか月1回は計画によるドライブを行っている。希望により個別のドライブ等もある。	

グループホーム 野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、ご自身でお金を持っておられる方はいらっしゃいません。ホームでお預かりしている方で何か買いたいとの希望がある方にはその都度対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をかけたいとの依頼があればすぐに対応しています。手紙やはがきも、やりとりできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系のライトを使用し、ほどよい生活音のする中でリラックスできる雰囲気作りを心掛けています。毎月季節に応じた制作を目に付く場所に掲示し季節感を感じていただけるよう工夫をしています。	掃除の行き届いた共用空間は広く、車椅子の利用もスムーズである。食堂とリビングが別々に設けられており、食事までの時間はテレビを見たり新聞を読んだり、全員で歌う唄ったり、機能訓練をするなど思い思いにリビングで過ごす姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用のソファや二人用のソファを置き自由に過ごせるようにしています。又、性格の合わない利用者同士がトラブルにならないよう座る席の配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人を含め、家族と相談しながら家具の配置や装飾をしています。又、なるべく以前から使用していた家具や生活用品の持ち込みを依頼し、居心地の良い環境作りに努めています。	洗面台とベッドが備え付けられた広々とした居室である。家族用のソファや民謡等これまでの趣味を感じる物、自宅から持ってきた着物を飾ってある居室と、入居者の生活歴を感じる部屋作りがなされている。全居室に加湿器も設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場は見てわかるように目印を作り、床はバリアフリーだが、障害物をなるべく取り除き安全に自立で移動できるよう配慮しています。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム野の花
 作成日 令和 2年 4月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		他県にいらっしゃるご家族に対して、日頃の入居者の状況報告が少なかつたように思う。	他県にいらっしゃるご家族にも入居者の状況を蜜に報告し信頼関係をきずく。	状態悪化時や病院受診時のDrからの説明だけでなく日頃どんな状態でおられるかなど1回/月電話報告を行う	1ヶ月
2		理念の啓発・共有を継続して行ってきたが、新しい職員も加わったので再度、理念について理解を深める	職員間で理念についての理解を深め振り返る機会を持つ	1回/月のスタッフ会議で理念を全員で暗唱し理解を深めていく。	12ヶ月
3		言葉の無い入居者に対して、今の生活が本当に満足できているものなのかる	入居者の声なき声を敏感に察知し、心の声を考えたケアができるようになる	日々の生活の中で、入居者の表情や行動を見て感じた事を職員全員で共有しケアについて考える時間を作る。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。